

## 巻頭言 『障害者の自立支援における客観的評価と満足度の確立を目指して』

監事 笹田三郎

スリランカでの視覚障害者自立支援（日本の指圧マッサージ師養成）ですが、その評価は主観的評価に頼りがちでした。新しい考え方として国際リハ研究会立ち上げに触発され、客観的評価と満足度に注目しその概要を3項目で書いてみます。

### 1. 主観的評価 → 客観的評価

セラピスト養成（人材育成）評価の3本柱は基礎理論、技術、セラピストとしての態度です。理論科目は客観的評価が得やすいが、技術と態度の評価は主観的になりがちです。その客観的評価はどうしたら得られるかが懸案事項です。そこで従来型の評価にとらわれず教員の訓練生評価だけでなく、訓練生からの教員評価、訓練生相互間の評価、訓練生の自己評価を取り入れ客観性を増すことを考えています。

### 2. 教わる側、教える側、両者の満足度、達成感、幸福の追求

両者の共通点は社会とのつながり、クライアントからの感謝、仲間同士の繋がり。相違点は支援が目的VSお金が目的、上から下への目線VS下から上への目線。不幸をもたらす要因は比較すること、幸福をもたらす要因はpositive thinkingを育てること。

3. 紆余曲折の厳しい数年間を乗り越えてNGOアプカスの指圧マッサージ自立支援は今では順調に発展しています。本年5月、「JICA草の根技術支援」の開始に当たって、停滞しているスリランカ国立訓練所側の自立的、実質的な発展を支援することも課題となっています。

## 特集 『本研究会の二大プロジェクト始動』

本研究会で取り組んでいる、会員向けの動画：web講座「国際リハMOOC」と、適正技術の集積等を目的としたプロジェクト：A/Tbankについてご紹介します。

### Web講座『国際リハMOOC』始動！

2019年2月より、当研究会のWeb講座『国際リハMOOC（ムーク）』の配信が始まりました。第1回は河野代表の語る「国際リハビリテーションとは？ここまでの仮置き」（国際リハセミナー、2018年7月開催より）という内容でお送りしました。今後、日本作業療法士協会元会長、杉原素子先生のご講演を始め、世界のリハ事情、適正技術、難民支援、災害後のリハ、国際リハの現場活動など、幅広いテーマを取り上げていく予定です。動画制作は研究会メンバーの手作りで行っておりますので、配信までお時間をいただくかもしれません。首を長くして（？）楽しみにお待ちください！（松尾英憲）

### 豊かなA/Tbankにむけて～リレー共有と先行研究調査にご協力を！

A/Tbankでは事例の蓄積や共有が大切です。事例がたくさんあるほど、このbankは有益な場・ツールになります。「これが適正技術です！」と事例を出しにくいかもしれませんが、きっともっと気楽に事例を共有していただいで大丈夫です。現地の活動は多くの要素が人々の関係性をもとに一瞬で変化する一回性の出来事の積み重ねであり、そもそもあらかじめ予想できる適正技術の関わりなど存在しません。それよりも大事にしたいのは事例にどのように関わり、何が起こっていたか。その中で適正技術として考えられる部分があればそれは何かということです。どんな事例にも必ず適正技術の部分があり、そこにスポットを当てたいと考えています。▼こうした事例のほかに、時折利用できそうなちょっとした工夫の小ネタも大切にしたいところです。もちろん文化や必要性はすべての活動のすべての瞬間で異なるのですから、どれが適正かということはないと思います。小ネタを気楽に出





して頂き気楽に使ってみるのが良いと考えています。A/Tbankでは器具道具だけでなく、アプローチ・環境と3つの入り口で用意していますので、どれかに当てはまりそうな「工夫の小ネタ」共有してみてください。もしかすると事例や小ネタ共有のリレー共有が回ってくるかもしれませんが、皆さんで作るA/Tbankにご協力願います！▼もう一つの先行研究調査では、“適正技術がどんな概念でどのように変遷してきているのか”という過去と現在、加えて“適正技術の概念は発展的に何につながり、どうなるのか”と現在から未来を捉えたいと考えています。その中で“我々国際リハの適正技術”が現実の活動で役に立ち、そして研究の場づくりに繋がることを考えていきます。とっても興味深いものになると感じています。こちらは一緒に考えていってくださるメンバーを募集中です。▼A/Tbankを皆さんで利用できるように準備を進めています。会員の皆さんのバイタリティーが、そのまま豊かさとして蓄積されるA/Tbankにしたいですね。（中村賢二）



今後とも様々な活動を展開していく予定です。乞うご期待ください！

## お知らせ

### 【国際リハビリテーションセミナー2019／第2回通常総会開催】

- ・開催日：2019年6月1日（土）13時開始予定 聖心女子大学グローバルプラザ（東京都渋谷区広尾）
- ・セミナー「オルタナティブなリハビリテーションを模索する」
  1. ミャンマー・カレン州にオルタナティブな社会システムを垣間見る（河野眞）
  2. オルタナティブなリハビリテーションとしての適正技術：A/Tbank活動を推進する（中村賢二）

【Web講座】第1回目のコンテンツはこちらです。是非ご覧ください。 <https://youtu.be/7djV8Lqho8>

## コラム 大室和也の「せかいのめがね」

事務局担当の大室理事はハンガリーを拠点に世界中で活動を展開中です。このコラムではそんな大室理事のメガネを通した世界の姿を毎号お届けします。



ザンビアのメヘバで活動して5ヵ月になりました（この原稿を書いている時は既に帰国しています）。ようやく私も地に足がついてきたのか、その生活の中で、車いすを使っている方や松葉杖を使っている方を見かけるようになりました。そういった方に出会うとつい声をかけたくなくなってしまうのは、国際リハをやろうとする者の性でしょうか。

▼写真のこの方が使っている松葉杖は、メヘバ難民居住地で活動しているUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）から供与されたということでした。庭に椅子を出して、その松葉杖を椅子にかけておられる様子から察するに、家と庭の往復に使っているのでしょうか。▼そして右の写真はこの方の自宅のトイレ。すごくきれいにされています。でも、ようやく立ち上がることのできるこの方が自立して使えるとは思えません。▼これがメヘバでの生活の一端です。この国際リハ研究会が関われる場所は、様々にあります。みなさまもぜひ現場に足を運んでください。

## 編集後記

平成最後の国際リハNLに携われたこと、感謝いたします。令和でも多くの刺激を頂き、精進します。（勝田茜）  
国際リハNLで初めて編集デビューしました。令和デビュー！まだまだ新しいことたくさんありますね。（林寿恵）

【研究会FaceBook】 <https://www.facebook.com/pages/category/Nonprofit-Organization/> 国際リハビリテーション研究会-1951070205159667/  
【お問い合わせ】 国際リハビリテーション研究会事務局 [jsir.office@gmail.com](mailto:jsir.office@gmail.com)

